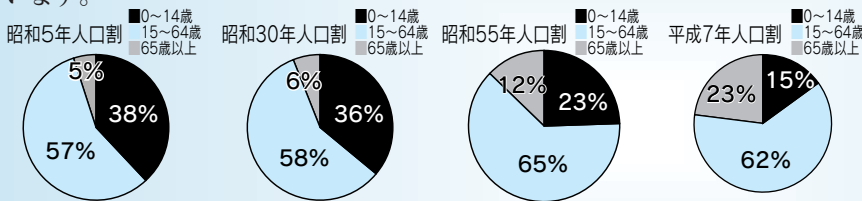


男女がよきパートナーとして共に生きるために

急速に進む少子高齢化と男女共同参画

日本は今、大きな問題を抱えています。急速な少子化と高齢化の進展です。社会の担い手が減少し、若い元気な人が少なくなると、経済・産業の活力が衰える恐れがあります。また、中年層、青年層の負担も増します。

社会の担い手不足については、女性が活躍することにより新たな可能性や活力につながります。女性自身も職業を持って活躍したいという気持ちは当然のことです。しかし、女性の7割が結婚や出産により仕事を辞めます。また、育児休業を取る人は、残り3割のうちの73.1%で、男性の取得は0.44%と非常に低い値です。男女共同参画は、仕事と家庭の両立支援と、男性の家庭進出を進めようとしており、これによって少子化対策にも貢献できると考えています。



国勢調査による佐賀県の年少人口・生産年齢人口・老年人口推移。少子高齢化が急速に進む様子が見えます。また、核家族化が進み、1世帯当りの人口は昭和30年まで5人を超えていましたが、平成12年にはほぼ3人となりました。

社会の指導者層や組織の長などに女性が多くなると、男性のみで物事を決めていた頃に比べ、様々な価値観や発想を加えた判断ができ、より柔軟に状況の変化に対応でき創造性も増します。

かつて男性社会だった企業等の幹部、中堅層に女性が進出し、企業等の活力が増します。これに伴い、均等な機会や待遇が変わるほか、多様な働き方ができるようになります。

男性も家庭生活に参画することにより、子育てや教育に深く関わり、地域活動の楽しみを再発見し、生きがいを見つけやすくなると考えられます。

わが国の現状は、男女共同参画には、まだまだ程遠い状態にあります。しかし、全ての人が生き活きと住みやすい社会にするためには重要なことなのです。



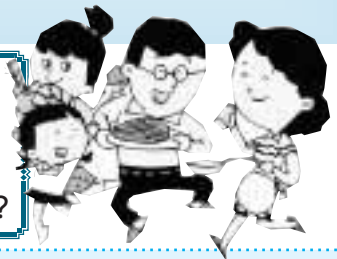
担当：綿島

「わたしの思う男女共同参画」

シリーズ 4

～市内のあちこちで、男女共同参画へのご意見を伺いました～

★質問：武雄市では、男女共同参画社会づくりは進んでいると思いますか？



☆回答：どちらかといえば進んでいる

☆意見

PTA役員の中でも母親委員の方々には、日々頑張ってもらっています。細かい配慮や活動によせる熱い思いにはいつも感心させられます。

家庭において男性はできる限り家事や育児に参加をし、女性の社会貢献への道が多く開かれる手伝いをすべきだと考えます。また、職場でも男女が補い合い、尊重し合えればと願っています。

男女共同参画は、小さな子どもから大人まで、お互いを思いやる気持ちが基本ではないでしょうか



北方中学校PTA会長
草場 耕八さん（北方町）

☆回答：どちらかといえばまだまだ進んでない

☆意見

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についての全国の性別構成割合の推移で、1979年(昭和54年)「賛成」と「どちらかといえば賛成」の比率は女性が77.2%、男性が82.6%で、25年後の2004年(平成16年)はそれぞれ46.2%と56.7%に変化している。

「家庭での男女の地位は平等である」は45%前後であるが、「掃除は妻がしている」は82%である。男女共同参画についての研修会は盛んになって来ているが、地域社会は慣習・慣行から成り立っている。それが「普通」と思うか「おかしい」と思うかで、男女共同参画が始まると思う。職場でも家庭でも男女が「共に働く」の社会が訪れる事を願っている。



佐賀県男女共同参画推進員
中山 稔さん（山内町）